

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201702		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街東新田		
所在地	静岡市駿河区東新田4丁目16番2号		
自己評価作成日	平成25年7月6日	評価結果市町村受理日	平成26年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;IjigvosvCd=2274201702-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;IjigvosvCd=2274201702-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成25年8月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフのモチベーションとスキル向上に力を入れており、明るい雰囲気の中でサービス提供をさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

安倍川の西側、長田地区の川原通に面した住宅街に事業所はあります。残存能力を活かした生活支援を旨とし、日本平動物園やわさび工場見学などの外出レクリエーションや、バイキング・おでんパーティなどといった調理レクリエーションが盛んにおこなわれています。イベントを職員自身が楽しめていることから、職員間のチームワークも生んでいて、利用者へのサービスケアの高さにもつながっています。また、職員の観察力の高まりから身体変化への対応力を職員がもつようになったことも財産の一つです。訪問時、面会の家族が職員の中にとけ込んでいる様子や、外出レクリエーションに家族も同行することなどから、開設から8年を経て家族との関係を着実に築いていることが視えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしくという理念の基、利用者・職員共に顔なじみの関係を築き、各々が現在できる力を引き出しながら、その人らしい生活ができるように努めている。	朝礼で唱和したり、定例ミーティングで確認するなどして、意識の継続に努めています。管理者からみても職員は外部研修に積極的に参加し、また同僚同士のフィードバックもあり、相互研鑽の気運があります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の散歩や買い物、地域行事など外出の機会を設けている。	自治会に加入しており、定期清掃にも参加し、地域の一員としての役割を担っています。また、小学校からウエスの提供もあります。近所の畑の芋ほりは利用者の楽しみとなっています。	隣り近所の皆さんに気軽に訪問してもらえようような関係を築きたいとのことですので、来年の梅ジュースづくりにはぜひポスティング告知などを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お祭りや防災訓練などへの参加を通して、認知症への理解を深めていただけるよう交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、報告・話し合いを行い、出席者からの意見をサービス向上に活かしていくよう努めている。	運営推進会議は、階下の小規模多機能事業所と時間差で開催しています。家族の参加も多く、利用状況などの報告も併せ、隔月開催が叶っています。面会ではでなかった意見が家族からでるなど、運営に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での意見交換はあるが、日頃からの連絡には至っていない。	運営推進会議には地域包括センター職員の参加を毎回得ていて、「介護度が高くても自身で食事ができていて、日頃のケアサービスのよさがわかる」との発言記録からも、関心をもってよくみてもらえていることが覗えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行い職員への理解を周知すると共に、身体拘束をしないケアを心がけている。	細やかな取り組みから身体機能の維持が叶っています。重度化が緩やかに進行しているため、本部研修での学習を蓄積する期間があり、職員の工夫と対応に心配がない状況にあります。本年は急変時の対応について力を入れ、結果事なきを得たというケースもあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアにおいて注意深く観察し、施設内研修を行い事例の理解を深め、職員間での反省や意見交換を通して虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援・成年後見制度について学ぶ機会を持ち、関係者との話し合いにおいて活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を用いて、説明すると共に理解できたか否かを確認するよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会を実施し、家族より意見を伺う場を設けて運営に反映できるよう努めている。	あいあい通信(法人発行:四半期)、あいちゃん通信(エリア発行:隔月)などのほか、担当職員の手紙のついた「あいの街便り」が毎月家族に届けられています。家族からは「薬を減らしてほしい」などの意見が挙がっていて、都度解決されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼やミーティングの際に職員からの意見・提案を募り、運営に反映させている。	管理者が現場でも働いていたということもあり、コミュニケーションが良好です。日常的には行事への提案意見が活発ですが、ほかにも職員意見から休憩時間を小刻みにすることで休憩回数を増やしたという実績があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価の際、職員が自己評価を行い勤務状況の把握をしている。それにより職員の能力を開発し、個々の適性を見出してやりがいや向上心をもって働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で採用研修や経験に応じて研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の意見交換会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のペースに合わせて意見を聞き、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しても、不安や要望に耳を傾けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から意見を聞き、最優先する課題を見極めサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活ペースを大切に、出来る限り自分の力で生活し、必要な箇所を支援しながら共有の時間を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報を共有・交換しながら、家庭での生活がより良く過ごせるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活を大切に、馴染みの関係が途切れることのないよう努めている。	誕生日の生花ブーケプレゼントは開設以来続けていて、恒例行事となっています。親戚の結婚式など、家族行事に参加する人もいます。また、事業所の外出レクリエーションには家族も同行し、楽しい時間を共有しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持てるよう努め、コミュニケーションがとれない方には職員が声かけを行い雰囲気に関わらせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族から様子を伺い、関係を断ち切ることなく適宜に相談・援助を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや意向を大切に、出来る限りそれに沿って支援するよう努めている。	年々言葉で意思を伝えることができる人が減っているなか、表情で汲み取ることに努めています。訪問時にも息子のように寄り添う職員や嫁のようにかいがいく立ち働く職員を視認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での様子、前サービスの利用状況などケアマネージャーを通じて収集すると共に、本人・家族とも関わりを密にして努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々に関わる時間を持ち、心身の状況を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、ケアマネージャー・職員・家族間で現状や要望を話し合い、意見をまとめ介護計画を作成している。	主担当の他に、2～3名が担当することで利用者の状態を細かく把握しています。毎月のカンファレンスではヒヤリハットを参考にすることで意見を出し合い、家族の意見も取り入れた介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録表を日々記入して職員間で情報を共有し、実践とミーティング等で見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況や要望を把握し、その時々に応じて柔軟な対応が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幅広い資源を活用し、安全で楽しい生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医に定期受診を依頼しており、常に連絡をとり相談支援を行っている。	協力医を総合病院に変更したことで、訪問診療が始まり、またPSWからも適切なアドバイスが得られ、医療環境が向上しています。受診支援は家族にお願いしていますが、日頃の様子はメモ書きで家族に渡しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中での些細な変化も記録・口頭により伝達し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、往診の医師との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際は施設で対応出来る限りのことを家族に説明しながら方針を共有し、関係者と協力しながら穏やかな終末期を送れるように支援している。	看取り加算もと、ターミナルケアとメンタルケアの学習も本部主導で進んでいます。実際は移設となりましたが、ターミナルケアに至りそうな利用者が1名いたことから、あらためて職員意見を確認する機会もありました。	本件に関してすべての職員が前向きという状況にはないようですので、さらにメンタル面での学習機会を設けることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修等を通じて学習する機会を設けているが、定期的な訓練を行うまでには至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加し協力を呼び掛けており、夜間想定訓練を図っている。	年2回の防災訓練では、消火器の使い方、通報方法など消防署職員の指導を仰いでいます。地域の皆さんに事業所訓練に参加してもらうことは叶っていませんが、手作りの搬送タンカも用意され、取組意識の高さが覗えます。	次回の訓練には、夜間想定にも取り組むことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナー研修を通じて利用者への接し方を勉強し、心身の変化が顕著な利用者の場合は居室ドアを開放している時もあるが、その状態が慢性化しないようにそのつど職員への説明を行っている。	呼び方にルールは特にありませんが、職員は「～さん」づけを常としていて、家族から要望のある1名の利用者のみ「～ちゃん」づけとしています。申し送りなど記録はイニシャルで、入浴や排泄の介助は同性を遵守しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を最優先に考え、思いや希望を表してもらえるよう接し、それが実現出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の日々の体調・状態を考慮し、希望をききとりながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り本人に選んでもらい、その人らしく装うことができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎回ではないが、希望をきき献立に取り入れられている。調理や片付けにおいて出来る所は手伝って頂いている。	者やマクカツは目毛から持ち込んでもらっています。体調に応じて調理方法をかえたり、利用者にもぬかづけをかき回してもらうことを支援するなど、食への意欲をつくっています。また、その場で焼いてみせるなど演出付のイベント食にも取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のペースに合わせて摂取量が少ない方へはこまめに機会を設け、トロミや刻み食を適宜に使用し栄養確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人で出来ると思われる方でも口腔状態を確認するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ペースを把握しそれに応じてパッド・オムツ交換を行うほか、座位がとれる方は定期的にトイレに座って排泄されるよう支援している。	「なるべくトイレで」と考え、単椅子の利用者もトイレでおこなうよう介助しています。紙オムツだった利用者に必ずトイレでの排泄を支援したところ、現在はリハパンになったという例もあります。バナナジュースなど快便への配慮にも余念がありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まず下剤に頼るのではなく、運動や水分補給を通じて自然な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調や希望に沿って入浴を支援している。	希望の入浴時間に対応していて、週3回をめやすに湯をはっています。利用者の作品を掲示したり湯に浮かせる遊具などを用いて、楽しい時間にしようという意欲が伝わってきました。泡が気持ちよさそうな足浴機械は職員の寄付とのことで、皆に喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムを優先し、体調や状況を考慮して休息を促したり、安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書を確認し申し送りをを行い、症状の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦を参考にし、個々の得意なことを見出し役割をおまかせしたり、気分転換を図り支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意向に沿うよう散歩・買い物等に付き添っている。季節行事やイベントを通じて、普段は行けないような場所へも楽しんでいただけるよう支援している。	日本平動物園、わさび工場見学などの外出レクが盛んにおこなわれています。イベントを職員自身が楽しめていることから、職員間のチームワークも生んでいて、利用者へのサービスケアの高さにつながっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的にはお金の所持を控えているが、外出時など買い物を行う機会を設けて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	意向により電話をとりつぎ話すことができるようにしているほか、宛名書きをお願いしたり手紙を書くことを促し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気を心がけているほか、利用者と共に季節に応じた作品を作り掲示して、居心地のよい空間作りを支援している。	空調や利用者同士の相性を考慮した配置に努めています。また、一人ひとりの変化や行事に応じて撮影された写真を日めくりカレンダーのようにしたものや、利用者と職員の似顔絵などが空間に彩を加えています。訪問時、面会の家族が職員の中にとけ込んでいる様子から日頃の環境のよさが窺えました。	整理整頓はされていますが、目につきにくい箇所の埃などがあります。毎日の清掃でまかなえない箇所に取り組む日を設定することを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が間に入って各々が思い思いに過ごせる居場所の確保に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物品を持ち込んでいただき、本人が安心して過ごせるよう支援している。	ベッドは介護用ベッドのレンタルですが、エアコン、カーテン、クローゼットが備えられています。職員とともに掃除している居室は清潔で、自身で作ったクラフト作品が飾られていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせ、安全かつできるだけ自立した生活ができるよう努めている。		